

三桜高だより第2号



宮城県仙台三桜高等学校
〒982-0845 仙台市太白区門前町9-2
TEL 022-248-0158 FAX 022-248-0482
<http://sen3o-h.myswan.ne.jp>
E-mail chief@sen3o-h.myswan.ne.jp

春季体育大会・壮行式



4月25日・26日に春季体育大会が盛大に行われ、二日間とも晴天に恵まれ、クラスごとに工夫を凝らしたTシャツを包み、優勝を目指しました。結果は下りです。

また、開会式前には総体壮行式が行われ、試合での検討を誓いました。

◎女子16人リレー

- 1位 3年1組
- 2位 3年2組
- 3位 3年4組

◎男子10人リレー

- 1位 3年6組

◎大縄跳び

- 1位 2年6組
- 2位 3年1組

◎1年ドッジボール

- 1位 1年3組

◎2年ハンドボール

- 1位 2年1組

◎3年キックベースボール

- 1位 3年5組

◎男子キックベースボール

- 1位 3年6組

◎総合

- 1年 1位 3組
- 2年 1位 6組
- 3年 1位 1組

◎クラブ対抗リレー

- 運動部 1位 陸上競技部 (男子)
- 文化部 1位 ギター部



防災教育

4月12日、全校生徒を対象に地震についての防災教育が行われました。校舎が長町利府断層の上に乗っていることを再認識し、もしもの時の対応の仕方学びました。また災害用伝言ダイヤル(171)を全校生徒で実際に体験し、災害時には家族間でも利用できるように学びました。



この2日後、熊本地震が発生し、内陸型地震の恐ろしさを考えさせられました。

PTA総会

4月23日、PTA総会が行われました。

午前中は授業見学、午後から総会・学年PTA総会・クラス懇談がありました。



今後の主な予定

- 5/10 眼科検診 (2年・3年)
- 5/12 歯科検診 (1年・2年1~4組)
- 5/13 4時間授業
携帯電話安全教室 (1年)
公務員模試 (3年)
- 5/18 歯科検診 (3年3~7組)
- 5/19 小論文模試 (3年)
内科検診 (2年・3年)
- 5/26 内科検診 (1年)
- 5/27 生徒総会
県総体壮行式

開校記念式・音楽部報告会

4月13日、開校記念式が行われ、校長先生より仙台三桜高校の開校当時のお話がありました。その後、音楽部より3月29・30日に行われたニューヨークでの公演の報告がありました。



会話力を身に付けたい

教頭 猪股成彦

「わたくし、生まれも育ちも葛飾柴又で…」で始まる映画「男はつらいよ」については皆さんよくご存じかと思います。全48作品26年間の長きに渡り作られました。

車寅次郎こと「フーテンの寅さん」さんが実際にいたらさぞ迷惑な存在でしょう。自己中心的、謙虚さなど微塵もない。フーテン＝瘋癲と書きますが、その名の通り日本中をふらふらと旅をし、時には暴れます。ただ、なぜか寅さんは周りの人を引きつけます。

「ようっ！ その兄ちゃんどうした、つらいことでもあったのかい？」「おばちゃん、大変そうだな、俺がそれ手伝ってやるよっ！」と、どんどん突っ込んでいきます。まあ、恋をして最後は必ずフラれる寅さんですが、マドンナたちはそんな寅さんに救われ、それぞれの恋を成就させます。

寅さんの何が魅力なのでしょう。子供のような純粋な心でしょうか。いや、時にあまりに幼稚で呆られる大人です。私は彼のコミュニケーション能

力だと確信しています。困ってる人には「どうした？」と近づく。悩みを抱えている人の話をじっくり聞き、持論を展開し(正しいかどうかは怪しいですが)、相手が自分で答えを導き出す手伝いをする。

単文、略語？でスマホのメールはバンバン打てるけど、人を目の前にすると、焦点がぼけて何を言わんとしているのか、自分中心の会話で相手の気持ちが読めない。コミュニケーション能力の低下が叫ばれ久しいですが、寅さん並とはいかないまでも、生の話のキャッチボールが上手くてできる人間が必要とされています。相手の気持ちを想像し、思いやりながら話す力。相手が何を求めているのかを瞬時に判断し、「こうじゃないかな」と提案できる能力。

実際はそう簡単なことではないでしょうが、日常生活の中で、きちんと正しく会話することが大切。相手の気持ちを読みながら、そして、正しい日本語を使い言葉に出すこと。ご家庭でもすぐ実践できるのではないのでしょうか。



「なにかあったらいつでも柴又 とらやに訪ねて来な…」

帰るべき場所

寅さんの家は、柴又の帝釈天参道にある団子屋「とらや」です。おいちゃん、おばちゃんは「そろそろ寅さんが帰ってくるころだね…」。春になれば、妹のさくらは「お兄ちゃん、いつ帰ってくるのかしら…」と、至極、迷惑な存在ではありますが、どこか日本の旅先から帰宅するのを心待ちにしています。

ある時、さくらと夫のひろしさんは家を建てる計画をします。それを知ったおいちゃんとおばちゃんは、その資金にしようと思ったに帰ってこない寅さんの部屋を貸すことにしました。借り手はもちろん女性なのですが…。そこに、ふらっと寅さんが帰ってきます。「俺、疲れたから二階で寝るわっ！」と階段を上がっていくとします。想像できますよね。当然、理由など知らない寅さんは、自分の部屋が知らぬ間に借間になっていたと知り激怒します。暴れまわります。「ああ、いいいいいよ、俺が出てけばいいんでしょ。いらぬ存在なんだろう！」と、やおら店を後にしようとする寅さんですが、若い女性が借り主だと知ったとたん態度が一変します(笑)

普段は、日本中を北から南とテキ屋をしながら旅をしている寅さん。様々な人たちと触れ合い、意気投合し、時にはケンカをし、そして恋をして傷つきますが、そんな時、「とらや」だけが唯一帰ることができる場所です。「こんなしみつたれた薄汚ねえ団子屋なんか、さっさとたんじまえっ」と言うものの、平和な時間が流れているとらやしか自分が帰る場所はないと重々承知しています。

子供たちは近い将来、学校を卒業し、家を出て行きます。家庭を離れ楽しい時を過ごすこともあるでしょうが、一方、悩み苦しみ、傷つくこともあります。そんな時、安心して帰れる場所が家、「家庭」です。狭くても、自宅でご飯を食べ、守られている実感の中で、ぐっすり朝まで寝られる場所。当然ですが、在校中の今も同じでしょう。何気なく過ぎていく日常ですが、大人として平和な時と空間をずっと作り続けたいものです。

